

「一か八か」「0か100か」という言葉をよく耳にする。昨日は、2つの会議が連続してあったが、先生方の発言を聞きながら、「100を前提に物事を考える」と「0を前提に物事を考える」思考があることに気がついた▼100を前提に物事を考えると不満が出て0を前提に物事を考えると知恵と工夫が出るようである。「ナゼ、100ニナラナインダ」と思うと文句と不満。「ドウシタラ100ニナルンダ」と思うと知恵と工夫が出る▼どっちが面白いのかなと思うと、わたしは後者じゃないかと思う。そして、この発想を阿下喜の教職員は大切にしているのではないかということに改めて思った。それは、「挑戦」という言葉に集約するだけでは足りない。「過程（プロセス）」があるから、面白いと思えるのだ▼先生方の口癖は「とりあえずやってみましょう」「もし〇〇になったら、××していきましょう」この2つの言葉には、改革への意欲と改善しながらも目的に向かっていこうとする責任感がうかがえる▼先生方の発言を聞いているのは楽しいなと思えるのは、前向きな発想で議論を進めているからだと今更ながら気がついた▼わたしたちは、100にするためにルールや約束を決めすぎていないだろうか。手を出しすぎていないだろうか。失敗させないようにしていないだろうか▼「自由」ではない、自分の頭で考えさせるのだ。失敗を恐れない集団は強い。